



倉田小だより 1月号

～つながり いきいき 倉田っ子～

横浜市立倉田小学校



笑顔と平和を心から願って

～「ピース大作戦」とスマイルサイン～

校長 末松 隆一郎

あけましておめでとうございます。

令和5年が始まりました。年末年始と、陽射しの温もりに春を感じ、穏やかな新春をお迎えのこととお喜び申し上げます。皆様が幸せで健康に満ちた年になりますよう、心からお祈りいたします。

昨年4月からスタートした今年度、「3年ぶり」という言葉が、ようやく学校内外において多く聞かれるようになってきました。私事ではありますが、1月2日・3日と、3年ぶりに箱根駅伝の沿道応援に行ってきました。声を出しての応援や、のぼりや小旗の禁止・自粛など、全てが「3年ぶり」とはいきませんでした。死力を尽くして戦う選手たちに、精一杯の拍手を贈ってきました。残念ながら母校・青山学院大学の連覇はなりませんでした。最終的に総合3位に食い込む「王者の意地」の走りを見せてもらいました。そして、全ての選手たちから、大きな勇気や力、絆の大切さを与えていただき、とても幸せな気持ちになりました。

総合3位となった青山学院大学・陸上部原晋監督の恒例となった今回の作戦名は「ピース大作戦」でした。これは、2連覇を示すピースサインでゴールテープを切ってほしいという期待の他に、もう一つ意味がありました。原監督は昨年末に次のように語っています。「今年は戦争も起き今も終わっていない。コロナ禍も終息していない。世界中が平和になることを願います。箱根駅伝もサッカーW杯もスポーツは平和であってこそ選手は輝く。平和であって箱根駅伝が行われることに感謝して『ピース大作戦』で臨みます。」

感謝と平和を意味するピースサイン、もともとは英語で「勝利」のことを「Victory」と言うので、戦争での勝利を意味するポーズで「V(ブイ)サイン」として第二次世界大戦の頃欧州を中心に使われていたそうです。その後、1960年代に起きたベトナム戦争の反戦運動の中で、「みんなが不幸になる戦争に勝利はない。みんなで平和を目指していこう。」という意味で、「ピース(平和)サイン」として欧米にて広まっていったそうです。日本においては、1960年代に放送された女子バレーボールのドラマ「サインはV」の中でスポーツでの勝利を意味する「Vサイン」として広まり、1970年代には、写真を撮られる瞬間に「ピース」と叫ぶカメラのテレビコマーシャルがカメラとともに大人気となり、写真を撮るときのポーズとして定着していったとのこと。



校外学習などで集合写真を撮るとき、写真屋さんが「自由なポーズで」というと、多くの子ども達が「ピースサイン」をします。それらの写真を見ていると、共通することがあります。それは「笑顔」です。知り合いの写真屋さんにこの話をしたら、「このポーズは、笑顔と連動しているんですよ。」とおっしゃっていました。子ども達にとってこのポーズは、「ピースサイン」であり、そして、「スマイルサイン」でもあるのですね。

令和5年、今年もたくさんの「笑顔」と「スマイルサイン」に囲まれた倉田小学校であり続けるとともに、世界中も「平和」と「笑顔」の光に包まれる1年となることを願ってやみません。

本年もよろしくお願い致します。

